

「札幌らしい交通環境学習～札幌市立新光小学校での展開～」

【札幌市立新光小学校 教頭 斉藤 健一】

背景

札幌市では平成23年度から「私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てる」ことを目指した交通環境学習に取り組んでいます。3年生向け児童用の資料が全校に配付され12年目となる今年も、各校で交通環境学習が展開されています。

本校の実態

本校は、校区内に地下鉄や鉄道の駅はありませんが、地下鉄駅を終着駅とするバス路線が多くある地域です。路線バスは大切な地域住民の移動手段である一方で、若い世代を中心に公共交通離れが進んでおり、一家の自家用車保有台数が2台を超える家庭が少なくない地域と言えます。本校に通う児童の中には、バスの乗車経験がない児童も少なからずおり、社会を支える公共交通のよさを体験的に学ぶ必要性を感じています。

札幌市全体でも、バスの乗車人数は減り続け、郊外では路線の維持が難しくなり、路線の統合や便数の減少も始まっています。今後さらに利用者が減り続ければ、交通難民が増え、自動車を持たない市民にとって、移動手段の損失が大きな問題となることが予想されます。

学習のねらい

公共交通がわたしたちの生活を支えていることを知り、公共交通の役割を考える活動を通して、札幌市の公共交通のよさを実感できるようにする。

また、札幌市の公共交通が抱えている問題点と自分たちの生活に関係付けて考える事で、未来へ向けて自分たちにできることを考える学習を展開する。

本実践を通して、自発的な行動を取れるような人間を育てるきっかけとしたい。

想定している学習活動（社会科及び総合的な学習の時間）

- ・ 路線バスの乗車体験
- ・ 外部講師による講座①（専門家から公共交通の現状や社会的価値を学ぶ）
- ・ 外部講師による講座②（交通事業に取り組んでいる方を講師にお招きし、現状を知る）
- ・ 一人一台端末を活用し、学んだことをスライドにまとめる。
- ・ スライドにまとめたものを保護者や地域へ発信し、公共交通利用促進に貢献する。
- ・ 学んだ内容を学校ホームページで発信し、多くの人に見てもらい、公共交通利用促進に貢献する。



学習を通して期待される社会的効果

- ・ 本校児童及び各家庭での公共交通利用頻度アップ。
- ・ 地域住民の公共交通利用頻度アップ。
- ・ 地域全体での公共交通へのイメージアップ。

—本校として—

本実践を、教科等横断的な視点で計画し展開することと、学校内外の資源をフル活用することに重点を置いて展開することで、子どもたちの学びがより充実したものになるようにしていきたい。

また、本実践を広く知ってもらうことで、交通環境学習の発展に貢献していきたい。